

第 3 期飯田市中心市街地活性化基本計画について

1. 背景と目的

(1) これまでの取り組み

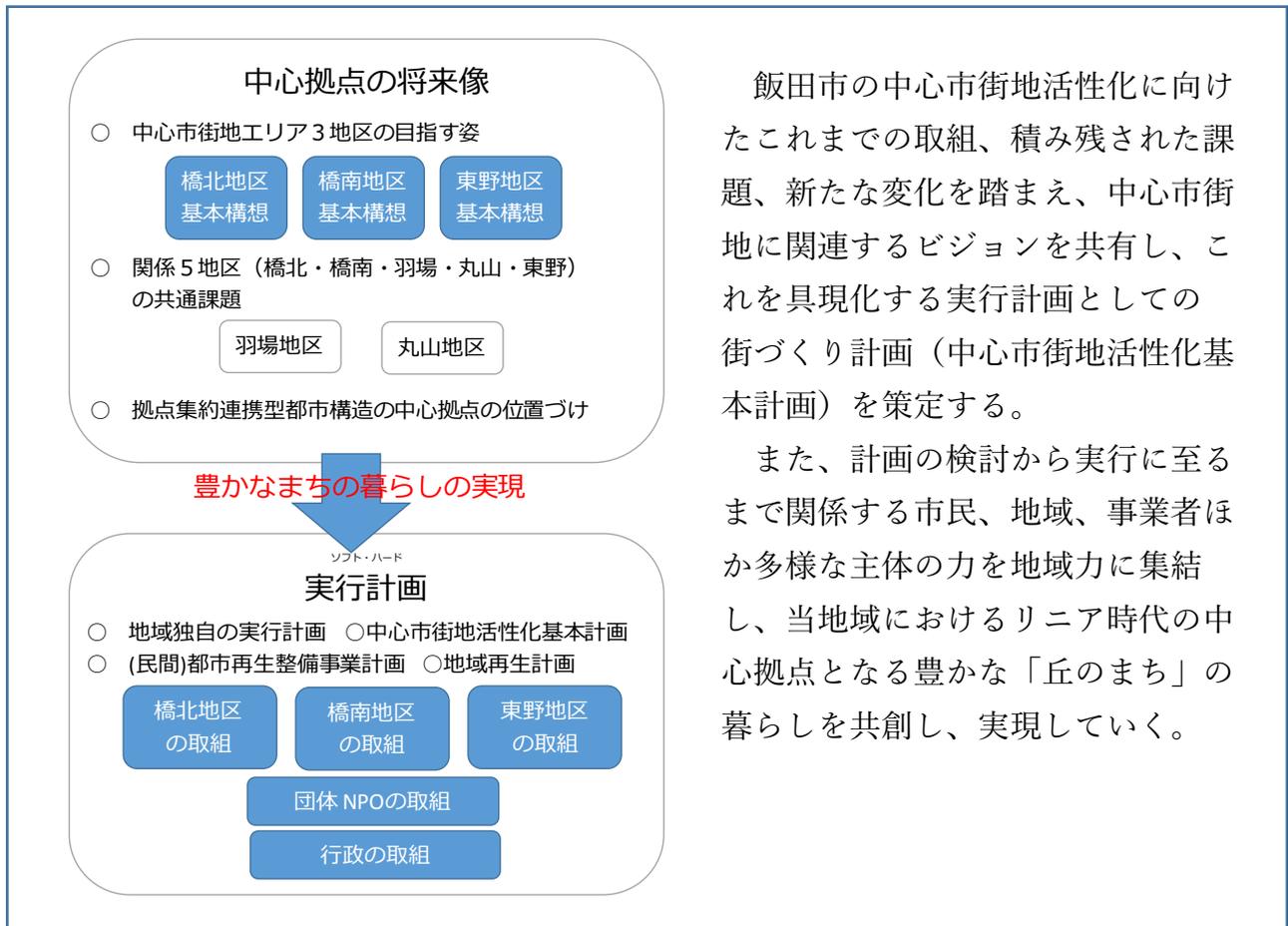
- ・第 2 期計画までの一定の成果（基盤整備 40 事業、ソフト 21 事業の充実等）
- ・りんご並木周辺の深化（動物園における入園者の増加、りんご並木再整備の完了）
- ・りんご並木歩行者天国等のイベントによる求心力の推進、りんご並木まちづくりネットワークを始めとする様々な担い手や助っ人の結集

(2) 積み残された課題

- ・続く市街地の人口減少、少子化・高齢化と地域力の衰退
（計画期間開始前年度（H26.1.1）9,404 人、計画期間の直近（H30.1.1）8,853 人）
- ・まちなかの商店街の高齢化と衰退。魅力低下を踏まえた人づくり、商品づくり
（H30.4.1 現在の高齢化率：橋北 40.4% 橋南 38.5% 東野 34.2%）
- ・恒常的な街の賑わい
（H29 年度における平日の歩行者通行量：9,316 人/日 対目標値 90.4%）

(3) 新たな変化

- ・中心市街地関連地区による将来像づくりの検討（橋北、橋南）と、具体的な取り組みの動きが開始（羽場、丸山、東野）。
- ・リニア長野県駅設置に向けた動きと拠点集約連携型都市構造における中心拠点の位置づけ。



2. 計画の基本的な考え方

- ・第3期計画は、「まちづくりは住民、事業者、関係機関が将来像を共有し、当事者意識を持って共創の場で策定し、実行していく」ことを大切に、様々な主体の参加・協力を得て、自主的・自立的な取り組みからなる実行計画とする。
- ・中心市街地の活性化、ひいてはリニア長野県駅設置に向けた中心拠点の活性化にも応じた取り組み施策を推進するものとする。
- ・策定作業は平成30年10月（2018.10）から2020.3月を目途とする。
- ・共創の場として様々な検討が行われた中で、合意が得られたものを位置付け、実行を第一としていく。
なお、積み残した課題・案件については、方向付けされた時点で加えていく。
- ・計画期間は5年間とする。

3. 策定から実行への進め方

- 各地区における基本構想の策定と具体的な取組（橋北地区、橋南地区、東野地区）
- 中心市街地関連地区における共通課題の確認
- 地区、関係事業者、NPO、有識者、中活協会、行政による「(仮)飯田丘のまち会議」での検討
 - ※ 「(仮)飯田丘のまち会議」は中心拠点の将来像を共有し、さらに具現化するための実行計画を策定し、実行を第一とする具体的な取組につなげていく。
 - ※ 実行計画の策定、実現に向け、市役所内に庁内サポート会議を設置する。

【スケジュール】

年度	2017	2018		2019			2020～2024 (5年間)
	12～3末	～9末	後期 ～3末	前期	後期 ～3末		
	各地区による将来像の共創と実践（橋北・橋南・東野）						
	素案作成	原案作成		地域独自の取組			
	中心市街地関連地区による共創と実践						
		準備会	5地区まちづくり協議会・地域協議会				連携した取組
	(仮)飯田丘のまち会議(地区、関係事業者、NPO、中活協会、有識者、行政)による共創と実践						
		準備会・調整	(仮)飯田丘のまち会議				具体的な取組
			庁内サポート会議				

▲
策定目途